Vol.2014-CH-104 No.8
2014/10/18

東京藝術大学における演奏会のアーカイブとその利活用について
― GEIDAI Music Archive のサイト構築までの取り組み ―

山田　香[†1]

東京藝術大学では年間約 160 件の公演が行われ、そのうち約 70 件が大学の公式な記録として収録されている。2011 年 5 月に設立された総合芸術アーカイブセンターの音響・映像データ研究プロジェクトでは、それらをアーカイブ研究の対象とした。収録されたデジタルデータのデータ形式やネットワーク関係などテクニカルな問題と、知的財産権の処理に係る問題に取り組み、収録から配信までに必要なプロセスを研究している。また、著作隣接権の消滅した過去の音源についても配信を進めている。それらの研究内容・成果について報告する。

The archives of the concerts and these apprecations in Tokyo University of the Arts
- An attempt to establish the website of GEIDAI Music Archive -

KAORI　YAMADA[†1]

There are approximately 160 musical performances per annum and ca 70 of them are recorded as official archives of the Tokyo University of the Arts. The GEIDAI Archive Center has been established in May 2011 and one of the research projects called the audio and video data project has studied for archiving these performances including several technical issues such as the design of networks, the format of digital data, and the treatment of intellectual property such as the copyrights and the neighboring rights. Furthermore, we have studied what is required for the process from recording to internet delivery. In this paper the author will report these activities and giving the examples of the internet delivery of the audio archives expired the neighboring rights.

1. デジタルアーカイブの対象

本学は奏楽堂を中心に様々な公演を行っている。その大多数を本学の音楽研究センターの音響研究室によって公式な記録として収録している。

2013 年度までに確認されている収録物の数は 15039 点。その収録メディアの種類も鑞管からアナログテープ、CD と多岐にわたっている。本プロジェクトでは、活動のベースとして、音響研究室が収録する公演の記録をデジタルアーカイブの対象に選択した。

2. 研究内容

2.1 デジタルデータの保存

1) データの種類

収録されたデジタルデータは、音源は WAV 形式、映像は MOV 形式、公演パンフレットは PDF 形式で保存している。それぞれのデータは、アーカイブに適したデータ形式・品質の検証を音響研究室、本センターの情報・システム研究プロジェクトと共同で行った。

2) データの提供と使用目的別の変換

収録した音源･映像データが音響研究室から提供される。提供されたデータは Apple 社の音源・映像データ編集ソフトウェア Compressor というソフトを使用して試聴用に DVD 化、インターネット配信用には配信に適した品質の映像データを作成する。またデータの利用目的によっては用途に応じた内容で変換を行う。このほか、公演パンフレットなど、紙媒体に関するデータは学内の関係部署より提供される。

2.2 デジタルデータの活用

本学で必要とされているデータの活用は、「複製・試聴」の二点があげられる。

1) 複製

出演者や研究者自身が保管するために行う。複製があれば随時、演奏を振り返ることができ、演奏や楽曲の研究が

†1　東京藝術大学総合芸術アーカイブセンター
Tokyo University of the Arts, GEIDAI Archive Center

ⓒ2014 Information Processing Society of Japan

できる。またコンクールやオーディションへの提出のために複製を許可する場合もある。

2) 試聴

出演者が自分の演奏を振り返るための利用と、研究者が楽曲の研究に利用する。本学関係者は音楽研究センターで原盤を試聴できる。2014 年度の公演分より原盤制作を行っていないため、インターネットによる配信での視聴を進めている。

これまでは、CD や DVD といったメディアによって視聴できるようにしていたが、本プロジェクトの始動によってパソコンやタブレット、スマートフォンによって出演者や研究者がいつでもどこからでも見ることができるよう、インターネットによる配信を開始した。まず学内限定の配信で検証をおこない、著作権や著作隣接権などの権利処理をクリアできたものから学外への公開も始めた。今後インターネットを通じて社会への音楽普及にも貢献できることが期待される。

現在、本プロジェクトでは「GEIDAI Music Archive（藝大ミュージックアーカイブ）」[†2] というサイトを構築し、公開を進めている。ウェブサイトの構築には、サイト作成用プログラムに Wordpress をカスタマイズしたものを利用し、映像のストリーミングを実現するために Vimeo を使用している。公開するコンテンツには、映像・音声のデータのほか、公演パンフレットが含まれるが、いずれも権利が発生しない部分と、利用許諾がとれた部分に限定して公開している。

2.3 活用に必要な権利処理

2.2 のような複製とインターネット配信は、法が定める「教育機関における複製等」が認められないことが多いため、個別に権利処理が必要になる。収録物には著作権、著作隣接権、肖像権等の権利が関連する。

1) 著作権の処理

著作権保護期間が満了している楽曲は、権利者の許諾無しに複製や学外への配信を行うことができる。

著作権保護期間内で複製・配信使用料が小額な楽曲は、著作権者や著作権管理団体から許諾を受け、複製や学外への配信ができるようにしている。

複製・配信使用料が高額な楽曲は、予算措置が可能な場合のみ権利処理をおこない、それ以外は複製や配信を行わず、学内に限定した試聴・利用とする。

2) 著作隣接権等の処理

2012 年 2 月より、本学学生、教員の学内での演奏について、著作隣接権および肖像権の承諾が事前に得られるよう、学内の規則を制定した。学外からの客員の演奏者など、この規則の範囲に該当しない方々へは、個々に承諾を依頼している。

3. 今後について

3.1 全データの高音質・高画質でのアーカイブ

過去の音源や映像は鑞管やビニールレコード、磁気テープなどに収録されているため、劣化が進行している。また再生機材の生産やメーカー保守の終了に伴う機材の不足で再生やデータ化が困難な状況にある。このような状態にある貴重な資料こそ、デジタルアーカイブすることが急務である。

また、最近のめまぐるしく変化するデータ形式にも後世に対応できるように、現時点で可能な限り高画質・高音質でアーカイブすることの可能性を研究し続けることが必要と考える。今後は高音質、5.1ch サラウンド対応のインターネット配信なども視野に入れて検証を行う予定である。

3.2 権利処理

研究に必要な複製使用料の確保が大きな課題となっている。教育利用における複製使用料について、他の教育機関や公共の研究機関などと連携をとりながら、アーカイブに対応可能な著作権制度についての検討を進めて行く。

3.3 芸術的センスを持ったアーキビストの育成

芸術大学である本学には、芸術家が学生や教員として所属している。そのため、単にデータを扱うだけでなく、芸術家の視点から音声や映像の記録、データの品質を追究することができる人材が期待される。芸術家に活用されるアーカイブを構築できるよう、芸術的センスとアーカイブの技術の両方を兼ね備えたアーキビストの育成が必要と考えている。

4. おわりに

本学の音楽研究センターには 1950 年代以降の公演の記録音源が存在している。また現在行われている公演も随時収録され、アーカイブが進められている。東京藝術大学、ならびに日本の音楽教育の歴史ともいうべき貴重な記録を後世に残すためには、これらの記録のデジタルアーカイブを進めて行くことが必要不可欠となる。

さらに、これらのデータを世界へ向けて発信することは、単に社会への音楽の普及に貢献するだけでなく、国境を越えて音楽文化を発展させるためのツールとして、世界中の芸術家に必要とされるアーカイブの可能性を秘めている。

†2 http://arcmusic.geidai.ac.jp/

ⓒ2014 Information Processing Society of Japan